

- 1 会議名 第12回公共施設再配置計画検討協議会
- 2 日時 平成30年5月22日(火)
午前10時から午前11時57分まで
- 3 場所 第3委員会室
- 4 出席議員 全議員(黒川議長は公務のため途中参加)
- 5 出席者 総務部長 山田日出雄、建設部長 片岡和浩、教育こども未来部長 長谷川忍、都市整備課長 西村忠寿、同主幹 石黒光広、同主任 酒井治、同再任用職員 長瀬公治、子育て支援課長 西井上剛

傍聴者 2名

- 6 事務局出席者 議会事務局長 隅田昌輝、同主事 高山智史
- 7 会長あいさつ
- 8 執行機関あいさつ 建設部長より
- 9 協議事項

(1) 保育園・認定こども園の利用実態等に関するアンケートについて

子育て支援課長：資料に基づき説明。

鈴木会長：アンケート内容と別に、自由回答をまとめたものを先日配布させていただいた。事前に目を通していただくことを前提として質問を求める。

宮川議員：この手のアンケートは何度もやるとは思えない。全般を聴いていて感じたのは、岩倉市は流動人口も多い。なおかつ、この回答は感覚に基づいている部分が多いと思う。別件で、過去に行った、駅から住宅への距離に対する感覚という調査によると、名古屋市の中区など中心部に住んでいる人が遠いと感じる距離は200メートル以上、西区では300メートル以上、岐阜県の都市に行くと500メートル以上という感覚があるようだった。これは、バス停の距離に比例するそうである。そうした感覚で遠い、近いということがあるので、人口の流動があるという前提で、ご両親の出身地という点も分析する上で大きな影響を与えると考えるが、そうした考えはあるか。

教育こども未来部長：今回のアンケートについては、今お住いの地区のみ。市民意向やまち・人の調査の時には、前住地とか転出した人にもアンケートを実施したが、今回はしていない。

宮川議員：今後こうしたアンケートを定期的にとるのであればそうした点にも考慮していただきたい。

梅村議員：西部は人数が少ないが建物のキャパシティー的に少なく配分しているのか。募集の結果たまたま少ないのか。

子育て支援課長：もともと希望も少ないが、クラス数によるところもある。北部、西部は少なく、中部などは多い。施設規模の大きな園にある程度人数をと

ところと、調整させていただく段階では、差が出ている。

梅村議員：希望した園が北部などで多ければ先生の異動などで対応するのか。

教育こども未来部長：現状、3歳以上は、各園に1クラスずつなので、選んでいただける状況にあると思う。3歳未満の入園希望が多いのが現状であり、今年度についてもどこの園でクラスを増やすのかを考えながら職員を募集、配置して入園していただく園についても調整させていただいている。

堀議員：自由回答だが、これは全体の総数及び掲載されているのはいくつか。

子育て支援課長：229人、374件の回答をいただいている。そのうち、この部分については、統廃合に関する内容、施設に関する内容、入園定員に関する内容と送迎に関する内容ということで136件を挙げている。

堀議員：かなり減らされているが、全体を見たい。資料要求したほうがよいか。

教育こども未来部長：アンケートを取る際に、統計的に処理すること、個人が特定されたり、個々の回答内容が他に漏れたりすることはないとしているため、ある程度ジャンルで現在の保育に対する批判、お褒めの言葉といった部分を公開することははばかれるのかなということと委員長、副委員長などとも相談して、分野別で公開した。最終的には、園の保育、給食がどうだとか、そうした意見があったというまとめ方はしたいと思うが、このように全部公表していくことは避けたところである。市民意向の調査などを見ても、最終的なところで、例えば、職員の数が多すぎるだとか、ものすごく批判的な意見が書いてあるが、最終的にそういう意見もあったということで評価していきたい。公開しないということを書いた部分もあると思うので、避ける必要もあると考える。

堀議員：特定される部分は黒塗りでよい。できるだけ公開してほしい。また、議事録等も見たが、それらとアンケートを押しなべて見てみると、私立保育園に肩入れしているように感じる。特に、議事録の中で副市長が「満足度について、民間のほうが満足度が高いことがわかります。それだけ民間のほうが頑張っているためだと思いますが、私立の保育園が頑張っていることを市民の方に知ってもらおう努力も必要なのではないか。」と言っている。もし私が副市長だったら、岩倉市の公立保育園も頑張っていること、もし、民間のほうが頑張っているのなら、もっと保育園のほうも頑張らなければならないという発言をするのが普通だと思う。そのあたりが、何というか基本的な方針ありきですべてが書かれてしまっている気がしてならない。

もう一つ特徴的な点でいうと、アンケート結果のまとめ方の幼保一元化の今後のあり方の部分で、公立の充実が73.5対私立の充実が62.3という説明がされたが、バランスを取りながら保育サービスを行っていくという回答欄を両方に足して、あたかもあまり差がないように見えるが、実際、細かい部分

で今後は公立保育園を充実していくという意見と今後は私立保育園を充実していくという意見では実に3倍の開きがある。そのあたりから、何というか、意図的に操作されているのではないかと疑ってしまうまとめ方がされている。

また、もう一点質問だが、送迎ステーションの利用意向で利用希望が7.5パーセントいる。それから、私立保育園では14.9パーセントあり、分母で割り返すと22人、全体で48人の方が利用したいと思っているということになる。現状と比較して、どういう乖離があってこの人たちが利用しないのかという分析について、どのように考えているのか。

教育こども未来部長：保育園と認定こども園の分析した際に、施設面では劣ると認識している。ソフト面でも残念な結果になってしまった。公私のバランスについては、片方しか経験していない人が多く、なかなか質問的にも難しいと思われる。公立保育園の適正な規模は確保するという基本的な考えも出しているし、全てが認定こども園に移行していくということでは決してない。操作をしてこの評価をしたわけではない。

また、送迎ステーションについては、子どものまち保育園についてもアンケートを行っており、場合によっては利用したいという意向も出ている。今度、0歳だけの小規模であるので、そこから変わったときには、あそこで特にみていることから、そうした回答も出てくるのではないかと思う。利用したいという方が、今、どこの園に通っているのか、通勤手段にもよるところだと思うが、そこまでの分析はしていない。

梅村議員：もしわかれば、公立保育園では保護者が送り迎えするのが条件というのは全国的にそういうものなのか。決まりのようなものがあるのか。

教育こども未来部長：全国的なところはわからないが、岩倉では基本的に送り迎え、一部の送迎ステーションを利用している方は、そこまで送るということをやっている。

梅村議員：よく幼稚園である送迎バスというのは、公立では検討されたことはないか。

教育こども未来部長：全国的にはあると思う。岩倉では導入していないが、山間部のまちなどでは実施している可能性がある。

榊谷議員：公立保育については、アンケートを全園とっているが、私立保育園、認定こども園は、なぜ個々の結果ではなく、一緒にしたのか。

子育て支援課長：認定こども園それぞれの統計は出ているが、園によって差が出ている部分もある。公立保育園の適正を見るところで、それぞれの認定こども園の各園の代表にお越しいただいている中で認定こども園の優劣をつけるという場ではなかったもので、公立との対比ということで認定こども園についてはトータルで評価を示した。

梶谷議員：認定こども園については、全部2歳までの子どものアンケートか。

子育て支援課長：保育として預かっている方はすべて対象となっている。

梶谷議員：3歳以上でも1号認定は除いても延長保育を受けている人は入っているということか。

子育て支援課長：その通りである。

梶谷議員：認定こども園の中で、希望する園ではない人が多いと思うがその理由は。

子育て支援課長：希望の園かどうかしか聞いていない。

塚本議員：自由回答を読むと、特に統廃合、施設、送迎、などに分けてあるが、市側の枠として分けただけなのか。最初からこういうことでアンケートを書いてもらったのか。

子育て支援課長：完全に自由に回答していただき、回答の中から大まかに分けた。

塚本議員：公共施設再配置計画だから統廃合が前提ということではないということだと思う。施設に関する内容を読んだが、トイレ関係が9回、駐車場関係が9回ある。トイレへの意見は昔からのものもあったが、再配置計画まではいかずとも現状での考え方を持っているか。また、曾野幼稚園などでは、きちっと駐車場をそろえていることから、メリットとして統廃合すれば駐車場の面積を確保できることもあると思う。トイレと駐車場の現状と将来像についてお答えいただきたい。

子育て支援課長：トイレは実施計画に基づき順に改修している。駐車場については議員ご質問のとおり全員協議会でお示しした資料でも駐車場問題は当然クリアすべき課題であると認識し、説明している。

梅村議員：現時点での待機児童数は。

子育て支援課長：4月に公表した通り、ゼロ歳、1歳、2歳各1名ずつの計3名。

大野議員：送迎ステーションの利用人数は。

子育て支援課長：11名だったと認識している。

大野議員：行き帰りでは何名ずつか。

子育て支援課長：確実に把握している限りでは、帰りの利用が2名おり、その内1名は行き帰りとも利用している。

梶谷議員：ゼロ歳に空きがあったと思うが、なぜ待機がいるのか。先の梅村議員の質問では、4月1日時点の待機児童数はわかっているが、さらにその後の入園希望で増えていないかという事での質問だったと思う。その点についても再度聞きたい。

教育こども未来部長：4月当初で定員の受入でゼロ歳児が入れそうなのは子どものまち保育園であるが、受け入れ側の人員が確保できていないため安全な保育が実施できないため、入れられていない。

(2) 岩倉市立保育園適正配置方針の考え方(案)について

堀議員：3ページの基本的な考え方4の4行目について、平均値で見たらそうかもしれないが、西部保育園の特徴的な満足度の高さなどについても記述すべきではないか。

また、次の基本的な考え方5について言葉の使い方に違和感がある。「保護者の意識格差の是正」と記述されているが、「是正」ということは今間違っているような感じを受ける。公立、私立それぞれの良いところを認めながらやっていくことが必要だと思うが、それを平均化、平準化していくことが必要だと読めてしまう。

教育子ども未来部長：保護者として委員に入っているのは、公立保育園の保護者だけである。中には私立を経験している方もおり、良い意見をたくさんいただいている。子どもとしても公立保育園で他に誇れる保育をしていると自信を持っており、そのあたりを統計的なところから客観的に判断した記述になっているので、ご指摘の点について今後検討したい。

また、「是正」という部分についてもご指摘のとおりなので、修正していきたい。ただ、分かりにくい部分として、認定子ども園ゆうか幼稚園などどちらかわかりにくいものもあるので、統一するなど検討していきたい。委員長、副委員長にもアドバイスをいただき、分かりやすく表現したつもりだったが、ご指摘いただける部分については、今後直していきたい。

大野議員：一般的な考え方だが、民に行く方はいつまでも民だし、同じ名前にしても意識は変わらないと思うが。

教育子ども未来部長：公立に行きたいという方がいるのも事実で、3歳になったら学校区内の公立に代わりたいという人もいる。また、校区ではなかったとしても、慣れた園にずっと通うという方もいる状況である。必ずしもずっと同じ園でということではない。名称を変えたからという点でいえばそうではないかもしれないが、岩倉市はこれまで公立の幼稚園がなかったことから私立は「幼稚園」、公立は「保育園」でずっと来ていた。私立の保育園ができたがまだ根付いていないため、名称を統一してわかりやすくしてはどうかという考え方である。名称の表示の変更により、費用負担をお願いすることにもなることから、今後、検討していきたい。

堀議員：例えば、いいところ、悪いところがそれぞれあると思う。それを保護者が選ぶわけだが、昔は、民間は保育士さんが若く、公立は経験豊かな保育士が多く、それぞれの保育の継承されており、経験値が高い保育士が比較的多いと感じていたが現状はどうか。

子育て支援課長：昔いた先生がそのまま今も残っていることもあるため全く差

がないとは言わないが、昔と比べて年齢構成も変わっている。ただ、若い先生たちがどの程度入れ替わっているかは把握できていない。

木村議員：基本的な考え方5について、保護者の意識格差があるということだが、提供する側として、意識は全く変わらないようにされているのか。

教育こども未来部長：公私の交流として、毎月の園長会には私立3園の園長にも参加してもらっており、年に数回交流会もしている。保育園の運営指針についての講習にも認定こども園の先生にも参加してもらうなど、岩倉市の保育としてよい保育ができるような取り組みもしている。

子育て支援課長：再任用の保育士が認定こども園を回ることもしている。

梶谷議員：以前、副市長が答えた、最初の特徴の4の「岩倉市では計画的に正規保育士を確保してきましたが」という部分について、全然計画的ではないのではないかと思ひ、納得できていない。計画的に採用されていないから40から50代の保育士がおらず、ゆがみが生じている。このことを踏まえて、「公私連携型保育所制度の活用を視野に入れた保育園の統廃合」という部分について、具体的にはどう考えているのか。公私連携型保育所制度の活用により、国の補助金がもらいやすいところを探るということでもあることを考慮しているのか。

教育こども未来部長：公立が施設をつくるためには補助はないが、民間であれば建設のための補助が出る。これまでのところで、認定こども園を作る際の補助はかなり手厚くもらっている。統合して建てる場合には、例えば、公私連携型保育所制度にしても私立にすべて任せるのではなく、公立の関与の度合いを強めることを意識して記述したつもりである。

保育士の計画的な採用については、40から50代で10年ほどの空白があり、40前半から半ばで園長になっている園が3園、残り4園とあゆみの家については、あと数年で園長が退職する状況である。再任用の制度もあるので、保育園に残ってもらい、指導してもらうことや、前指導保育士も子育て支援課に残ってもらい保育園の援助をしてもらっている。

採用については退職者の補充をする、一部不補充できたことも事実であるが、方針としては、クラス担任と障害児クラスは正規で実施している。

大野議員：公私連携型保育所というのは、将来的には民じゃなくて、官と一緒に民がやっていくのか、例えば、同じ園舎をつくって、ゼロ、1、2歳は官、3、4、5歳は民という風に同じ園舎の中でやっていくのか。保育士の確保は民間でも難しい状況であるが、そのあたりの構想は。

教育こども未来部長：運営の在り方はここでは今のところない。公私が一緒になった建物を作るということも決めていない。

木村議員：特徴の書き方が気になる。保育ニーズに対して子どもの数が減ってい

ることに対応していくということならわかるが。

教育こども未来部長：検討する。

梅村議員：「公立保育園志向」について、かみ砕いて、なぜ公立保育園がいいのかをわかりやすくしてはどうか。

子育て支援課長：考え方は、経験のある保育ができることや、園内で給食を自園で作って提供できることなどと思っている。

梅村議員：名称を「こども園」に統一して意識格差の解消をということだが、環境面についても統一的にする必要があると思うがどうか。それぞれのメリット、デメリットはあるが、公私でそう差はなくて名称さえ統一すれば意識格差はなくなるということで記述したのか、それとも、ある程度違いはあるという中での記述か。

教育こども未来部長：就学前の児童の幼稚園・保育園のあり方の基本方針を出したときに、岩倉の子たちは、岩倉で健やかに育てるということで連携してやっていきたいと思いますということで方針を出しているので、私と公立の保育については、よりどちらも向上した保育を実施していきたい、特色を出すというところはそれぞれあるが、一定の基準のところはそろえたい、お互いに高めたいという意識のもと、こども園という風に統一してはどうかとなった。ただ単に名称だけということではない。公立保育園志向というのは、岩倉の歴史の部分もあると思う。また、日中は、幼稚園と一緒にやっていると何となく教育的なことが重視されるのかとか、公立の伸び伸びとした保育を好まれる方もいる。逆に公立保育園でも英語をやってくれとか、平仮名を教えてくれという意見を出している方もいるので、そうした意見を持っている方もたくさんいるのも事実である。逆に認定こども園で教育にまで踏み込まなくてもいいという意見もある。そういったところが公立の保育園のイメージ感というか、そういう志向でという方もいる。

梅村議員：公立も私立も関係なく、違いというか、文字にするのは難しいかもしれないが、伝わるようなものがあればよいと思う。なにか共通のものがあれば、というところで、意見とさせていただきます。

堀議員：今の意見で、たぶん自分も含めて、幼保一元化の深いところの理解がされていないというか、いきなり出てくるものだから、大前提として幼保一元化の市の考え方や今後の方向性を書き込まないとせっかくアンケートがあつて素直な市民のニーズが色濃く出ている。だけど、市としては今後、幼保一元化の方向に時代の流れとともに進んでいるということこそが乖離だと思う。その辺りを解消していくことについて書ききれないと思う。

教育こども未来部長：行政の周知不足の面もある。アンケートについては、幼保一元化についての説明をしてアンケートに答えてもらっている。しかし、全く

知らなかったという人も事実としている。2006年の認定こども園制度が開始されましたとか、岩倉市のこれまでの経過をアンケートの中で少し触れている。

鈴木会長：5ページ目に第5回の懇話会で提示して検討した課題が載っている。5番、6番、7番、8番。5番の適正配置、適正規模の方針だとか、小学校区ごとの適正配置方針、具体的な適正配置のイメージ、これは、6月の懇話会で案が示されると思うが、例えばアンケートの中でも施設の古さや駐車場がないことも指摘されている。そういうものを盛り込んだ形でやろうと思うと建て替えや移設で公立保育園を何園にするのか、公私連携型保育所を採用しながら幼保一元化を図るなど、いろいろな取組が提案されると思うが、どういう形でまとめるのかイメージがつかめない。今までの経過をもとにどういう形でまとめようとしているのか、今後の方針は。

教育こども未来部長：配布資料の4ページの表は、小学校区ごとに保育関係の人数を表示している。5ページ以降が今後を示している。方針として、どれぐらいの数の公立保育園、認定こども園を今後配置していくのかに加えて、規模についても方針を持ちたい。ここで言う規模というのは、集団保育もあるので何10人以上、あまり大きすぎてもということも考えるところなので、何10人から何10人が適正規模という書き方になるのではないかと思う。

6番のところは、小学校区ごとの適正配置、適正配置方針案だが、岩倉市は小さなまちであることから小学校区ごとということにこだわりもあるので、学校区ごとでみていきたいということを記述したい。どうしてもイメージを記述すると、例えば北部と中部を統合するというようなイメージは示していきたいが、公共施設の統廃合ではなく保育園の統合ということになるかと思う。別の教育施設などと統合するというイメージは記述せず、いくつかのイメージを出していく。ただ、その時に、例えば一つ、二つのイメージを出したときに、じゃあこの保育園はどうなるのかといったことも残るので、6番の小学校区ごとの適正配置といったことも書くようにした。最初は方針といくつかの統合案だけというふうに思っていたが、そうではなくて、岩倉市全体の配置、方針案といったものも記述していきたい。

今後の課題といったところについては、ほかの児童福祉施設や教育施設との統合や実際に統合するということになれば、スケジュール感や今の場所にするのかとかを課題として書かなければいけないと考えている。今度の土曜日にワールドカフェのような懇談会を実施し、6月に示していくことを考えている。

鈴木議員：それを受けて、今度は、公共施設再配置検討委員会で保育園をどう受け取るかということもあると思う。複合化までの案はおそらく示されない

思うが、例えばどこかの園はくっつけて、どこかで立て直すという話になったときに、小学校区単位で考えた時にその小学校区の範囲内で考えるようなことも出てくると思う。そうなったときに、適正配置方針案をどのように取り入れて考えていくのか。

都市整備課長：学校施設の長寿命化計画と保育園の適正配置方針ということで、それぞれの案については、市民も交えて検討した計画になるので、そうしたことを尊重しながら最終的に再配置で保育園だけの統廃合ではなく、複合化できないのか、学校区ごと考えるのかも再配置のほうで検討していく必要がある。すでにモデルがいくつか出ているが、そちらについてこのまま継続してご協議いただくのか、もう少し方針を変えていくのか、そのあたりについて次回以降ご協議いただきたい。

榎谷議員：保護者に懇話会で提示してということだが、どのようにやっていくのか。すべての保護者に報告会のような形で示していくのか。

子育て支援課長：当初のアンケートの中で、ワールドカフェへの参加意向を聞いており、参加意向があった人に案内をしている。全保護者についてとなると、方針が出てから、または、4月以降の園の便りを通じてのお知らせになるかと思う。詳細について載せるのかは現時点でははっきりしていない。

榎谷議員：ワールドカフェへの参加意向がある方はどのぐらいいるのか。

子育て支援課長：660名ほどいる中で、80名ほどから参加したいとの声があり、再度ご案内したところ20名程度となった。会議のほうは、大会議室で開催を予定しており、現役の父母の会の役員に各園の園長からお声がけし、各園から2名から3名ずつ出ただけだとちょうどよい人数になると見込んでいる。

大野議員：次の会で方針案、考え方が示されると思うが、事前に、前回のような懇話会のように保育士の園長先生から異論が出るとか、民間の方から意見が出るとか、ということがないように、通常の会議の中で示しながら意見を賜っておいてほしい。それで修正できるものは修正しておいて、会議の中で異論が出てくることがないように事前にやるべきことはやっておいてもらいたい。

(3) その他

塚本議員：数字の確認をしたい。平成30年4月現在でよいが、修学前児童の人数として、保育園児722人と幼稚園児224人というのは表から出てくるが、就学前児童全体の人数は何人か。また、幼稚園のアンケートなり、要望なりはアンケートをしたことはあるか。

教育こども未来部長：住民基本台帳から算出する必要があるのですが、今すぐは答えられない。

塚本議員：幼稚園にも保育園にも通っていない子どもの人数が知りたい。それが適正配置の数で行くのか、減っていくのか、増えていくのか。また、幼稚園のほうもアンケートか要望を取れば、いいということであれば、進んで行く子どもの数の変化もあるだろうということでも聞いたかった。

10 その他

都市整備課営繕グループ長：修繕サイクルの考え方について、図示した通り、総合管理計画については、別紙のとおり再考した。資料に基づき説明。

(質疑なし)

都市整備課長：以前にもご案内している6月5日の春日井市の高蔵寺学びと交流センターの視察について、日程変更はできなかったので、精読日の6月5日午後2時から市のバスで行く。参加を希望する議員は申し出てほしい。(議員から11名参加)

教育こども未来部長：新年度予算でもお伝えした。病後児保育について、6月から実施する。委託先は訪問型を実施しているNPO法人に委託する。対象は、1歳から小学3年生まで。開設時間は月～金の7時半から18時。場所は伊藤外科皮膚科の裏(北側)の賃貸住宅のうち一棟。利用料は、病児保育より少し下げて、9割負担、3歳未満は1800円、3歳が800円、4歳が700円ということで利用料をいただく。市の委託で実施するが保険で3分の1ずついただけるというような状況で実施していく。6月号広報で周知する。併せて市外の補助も今年度から始めたが、1件実績あった。

大野議員：今週末のワークショップの開催場所は。

教育こども未来部長：市役所大会議室、14時～17時

鬼頭議員：議会サポーターの通知の封入の手伝いをお願いします。来週火曜の午後。

次回日程：6月20日(水)午後1時15分から